

# 売上高は8-9%増

9月  
中間

## コスモビューティ | 関東と関西に新工場



山添 隆社長

の9月中間期の見通しや今後の計画について大要次のように述べた。

一、9月中間期の売上高は、前年同期比で8-9%増。昨年の売上高は約300億円で、うち40億円がアルコ

ール製剤やハンドソープといったコロナ特需分。今期は特需がほぼゼロだが、国内はコロナ禍による巣ごも

り需要も追い風となり通販向けが盛況。通販向けについては、肌や髪の悩みに対

するソリューションに特化した処方バリエーションを数多く取り揃えていることがクライアントから喜ばれ

売上に繋がった。一方、海外売上は、中国でいせん

伸びている通販及びSNSマーケットにおいて、当社

が社内のアイデアコンテストをきっかけに開発したアイテムがヒットしている。

後半もこのペースで行くと、今期末の売上高は30-330億円前後まで伸びると見

ている。

一、関東と関西にそれぞれ新工場を設ける。関東新工場は、既存の関東工場の敷地内に建設、地上6階建て延床面積1万1829㎡の工場になる(写真1)。

着工は来年1月で、完成は同年12月を予定している。製造設備は3000トアン

ホモキナー×2機、5000L真空タンク×6機を



写真1. 関東新工場の完成予想図



写真2. 神戸新工場の外観

予定、充填ラインは87ラインで、どちらかというところ基礎化粧品対応の工場になる。投資額はおおよそ50億円

になる見込み。一方、関西の工場は購入し、化粧品工場にリニューアルする(写真2)。広さは敷地面積約4950㎡、延床面積2980㎡で、6フロアからなる充填に特化した専用工場になる。神戸工場の投資金

額は15億円を見込んでいます。一、今後は、国内で新たな工場のオープンさせる計画もあるので、工場や研究開発に関わる技術職、営業職、管理・事務方の人材まで、あらゆる部門における員確保が喫緊の課題。また、ベトナムでは

コロナ禍の影響で厳しい状況だ。ツクダの政策が敷かれており、当社のベトナム工場も稼働に影響が出ている。他の自社工場でもいかにカバーしていくかという課題に取り組みと共に、自社工場があることで、今期の後半期に向けては外注先の協力会社さんとの関係性も一層強化した。